

令和3年11月25日開催

本会議は、Web会議システムにより開催した

<発言者>

<項目・内容>

委

員

1 委員長挨拶

「11月18日、機動隊発足60周年記念行事に列席させてもらい、感謝を申し上げます。伝統の60年、同隊が培ってきた経験が現在の一人一人の隊員に浸透していると感じた。銃器対策、潜水しての作業、ビルからビルへの空中移動による人命救助などの訓練を見せてもらう機会は得がたいものであり、訓練中は隊員の誇りと勇気が伝わってきて深く感銘を受けた。これからも訓練を重ね、災害、犯罪、交通、テロなど陸上、海上、空中のあらゆる現場で活躍してくれることを願う。また、他機関や他県と連携し、自信と誇りを持って人命救助等に当たってほしい。」旨の発言があった。

警

察

本

部

2 議題

令和4年島根県警察運営指針・重点目標（案）

令和4年島根県警察運営指針・重点目標（案）について説明があり、原案のとおり決定した。

警

察

本

部

3 報告

(1) 令和3年重点目標推進状況

「生活安全部では、重点目標に『子供・女性・高齢者の安全安心の確保』を掲げて各種取組を推進した。人身の安全を確保するための取組の推進としては、DV、児童虐待、ストーカーの認知件数が昨年より増加したが、ストーカー事案では禁止命令を11件実施し、情報発信活動では、みこぴー安全メールの登録者数及びツイッターのフォロワー数が昨年より増加して、凶悪事件発生時における情報提供を実施した。総合的な犯罪抑止対策としては、ワクチン接種会場における広報啓発、青パト隊の新規結成、防犯ボランティア保険加入などを行った。なお、特殊詐欺被害防止については、未然防止件数が72件で昨年より28件の増加、謝礼品交付も48件で昨年より15件増加した。少年非行防止・保護対策の推進としては、非行少年や補導の件数は昨年から減少し、再犯者率も24.4%で全国と比較して低い水準である。県下の小・中・高校に対して非行防止教室を実施し、実施率は約80%である。社会情勢の変化を捉えた生活経済・環境事犯の取締りとしては、生活経済事犯について198件、165人を検挙した。地域警察における街頭活動の強化としては、積極的な街頭活動の推進により524件、432

人を検挙し、巡回連絡は197,229件を実施した。また、職務質問技能競技会や通信指令競技会の開催により事態対処能力の向上を図った。」旨の報告があった。

警 察 本 部

「島根県警察では、重点目標に『行政機関・民間事業者を狙ったサイバー攻撃への対処』を掲げて各種取組を推進した。情勢としては、サイバー関連相談件数が10月末現在で昨年と比較して202件の増加、検挙件数は、詐欺、児童買春・児童ポルノ違反等83件、被害状況の特徴としてはウイルスサポート詐欺が12件であった。また、行政機関・民間事業者を対象とした被害発生の認知はなく、警察本部による技術支援は各警察署の資機材充実等から昨年より減少した。サイバー攻撃等への対応の強化としては、重要インフラ事業者等に対する個別訪問・情報提供の実施、大規模イベント等における管理者対策の実施等を行い、組織基盤の更なる強化としては、特別研修制度やサイバー犯罪等対処能力検定による対処能力の向上を図った。産学官連携の推進としては、全警察署の警察署協議会においてサイバーセキュリティの浸透方策を諮問、島根県・民間企業と連携した広報啓発活動、サイバー防犯ボランティアの拡充・育成を行った。」旨の報告があった。

警 察 本 部

「刑事部では、重点目標に『凶悪な犯罪等の検挙と組織犯罪対策の推進』を掲げて各種取組を推進した。情勢としては、10月末の刑法犯認知件数が全国で最も少ない1532件、検挙率は全国8位の67.7%、重要犯罪については、認知件数が24件で検挙率は昨年発生のもも含めて全国2位の108.3%であった。重要犯罪・重要窃盗犯の徹底検挙取組として、捜査本部設置事件に対する捜査のほか、殺人未遂事件や遺品整理業者による多額現金窃盗事件を検挙した。また、特殊事件の発生に備えて事態対処能力向上訓練を実施した。重要知能犯の徹底検挙の取組としては、副業あっせん名目の架空請求詐欺事件、団体支所における多額業務上横領事件等を検挙したほか、第49回衆議院議員総選挙等違反取締りを行った。組織犯罪対策としては、暴力団犯罪10人、薬物犯罪20人、外国人犯罪26人を検挙し、特定抗争指定暴力団等の指定期限延長、第29回暴力追放・銃器根絶島根県民大会を開催した。変化する捜査環境への対応としては、証拠品管理システムによる証拠品の適正管理、機動鑑識隊の積極的な現場派遣を行った。」旨の報告があった。

警 察 本 部

「交通部では、重点目標に『高齢者を重点とした交通事故防止対策の推進』を掲げて各種取組を推進した。情勢としては、10月末現在で交通事故死者数が昨年より少ない8人、交通事故におけ

る高齢者の構成率及び交通事故死者数に占める高齢者の割合も低下した。交通安全教育・広報啓発活動としては、『キラリ推進隊』の委嘱拡充や反射材着用、飲酒運転根絶に向けたものを実施した。交通街頭活動、交通事故事件捜査等としては、妨害運転の検挙、反則金の納付方法の拡大に取り組んだ。安全で円滑な交通環境の整備としては、関係機関合同点検による通学路の安全対策、スムーズ横断歩道試行設置を通じた『ゾーン30プラス』による歩行者の安全対策に取り組んだ。運転免許行政の円滑な運用と運転免許を返納しやすい環境づくりとしては、認知機能検査及び高齢者講習の円滑な運用、迅速な行政処分の執行に取り組んだ。」旨の報告があった。

警 察 本 部

「警備部では、重点目標に『テロの未然防止と災害等への対処』を掲げて各種取組を推進した。第71回全国植樹祭については、新型コロナウイルス感染症対策に配慮した警衛警備諸対策により警備を完遂した。テロ等関連情報の収集・分析、官民一体となったテロ対策としては、関係機関との連携による聖火リレー警備の完遂、官民一体となった沿岸警備に関する諸対策、爆発物原料取扱事業者等との連携による不審者対応ロールプレイング訓練等を実施した。重要施設に対する警戒警備の徹底としては、原子力発電所に対する24時間体制の警戒警備、関係機関と連携した空港における各種対策に取り組んだ。テロ対処能力向上に向けた各種訓練等としては、関係機関との合同対応訓練、公共交通機関対策を実施した。緊急事態の発生に備えた危機管理態勢を充実させるため、予防的抗原検査の実施などの新型コロナウイルス感染対策、LINE公式アカウント『島根県災害情報BOX』開設による情報収集体制の強化、災害対応支援チーム派遣要綱の制定等による危機管理体制の強化に取り組んだ。関係機関と緊密に連携した各種対策としては、建設業協会、ドローン事業者等と連携した救出救助訓練等の実施、島根県総合防災訓練への参加による関係機関との連携強化に取り組んだ。緊急事態発生時における迅速・的確な警察活動の展開としては、大雨及び台風に伴う災害警備活動の実施、石見空港における米軍機緊急着陸事案発生に伴う警察措置を実施した。」旨の報告があった。

警 察 本 部

「警務部では、重点目標に『新たな時代に対応した警察組織の確立』を掲げて各種取組を推進した。県民の期待と信頼に応える施策としては、効果的な情報発信によりホームページアクセス数が92万件増加したほか、犯罪被害者支援公費負担制度の拡充、失敗に対するリカバリー教養等を実施した。社会の変化に適応する

警察運営としては、宿直終了日の半日勤務制度導入等によるワークライフバランスの推進、デジタル化の推進を始めとする業務の合理化・効率化、ピアサポート制度充実やハラスメント対策等に取り組んだ。総合力発揮のための人的・物的基盤の強化としては、オンライン説明会による採用募集活動の強化、非違事案につながりやすい業務の仕組みを改善し、職員が働きやすい職場環境を構築するという観点での各種監察の実施、多様な意見に配慮した出雲警察署整備事業、駐在所等の整備事業に取り組んだ。」旨の報告があった。

委

員

〔意見〕「サイバー事犯については大きな問題に繋がることもあるので特に注意をしてほしいし、職員の育成についてもお願いする。刑事部については、全国と比較しても高い検挙率を誇っているので、引き続きしっかりとした取組をお願いする。交通部については、高齢者の運転免許返納に関する取組をお願いする。警備部については、全国的に発生する災害について迅速的確に対応してほしい。また、原発やテロ対策では関係機関と連携して強化してほしい。警務部については、広報活動と人材の確保・育成が大切であり、デジタル化に備えた人材育成に配慮してほしい。」

委

員

〔意見〕「生活安全部については、子供や女性、高齢者の安全安心をしっかりと守ってほしい。また、職務質問の技能指導もしっかりと行ってほしい。サイバー対策も重要な課題であり、特別研修制度により、引き続き職員の育成に努めてほしい。刑事部については、全国的にも高い検挙率を誇っているので引き続きしっかりとした取組をお願いする。交通部については、高齢者の交通事故防止対策をお願いする。これから年末に向けて飲酒運転の根絶と、子供や高齢者の交通事故ゼロを目指してほしい。警備部については、陸空海と色々なところでの活動になると思う。今年は災害が多い年だったが、引き続き災害への対応をしっかりとお願いする。また、今年はオリンピックや植樹祭が開催されたが、しっかりとした警備のお陰で無事に終了したことに感謝している。」

委

員

〔意見〕「生活安全部については、特殊詐欺被害の増加が重要な課題である。新しい手口が次々に発生すると思うが、きめ細かい対策をお願いする。刑事部については、証拠品管理システムの導入は社会の変化に対応した対策であり、また、検挙率が良いので引き続きしっかりとした取組をお願いする。交通部については、高齢者対策が重要な課題である。高齢者をひとくくりにす

るのではなく、きめ細かい対策をお願いする。警備部については、LINE公式アカウントなどでの情報収集はインターネット環境を活用した素晴らしい対策である。警務部については、宿直終了日の半日勤務制度の導入やピアサポート導入などは良い取組だと思う。採用活動ではインターネットの活用も有効だと思うが、対面も大切なので、若い人と面接して警察官になりたいと思う人を増やしてほしい。全体を通して、社会の変化に応じて工夫した取組をしておられると感じた。」

(2) 苦情の取扱状況（令和3年10月）

警察本部

苦情の取扱状況（令和3年10月）について報告があった。

(3) 第47回島根県警察白バイ安全運転競技大会の開催結果

警察本部

「県下の白バイ乗務員の走行技術の向上と殉職・受傷事故防止対策の徹底を図ることを目的に、11月13日、島根県警察本部平成庁舎において、第47回島根県警察白バイ安全運転競技大会を開催した。出場選手は白バイ乗務員19人で、8の字や狭路での転回、回避制動等のバランス走行操縦競技、Sの字やクランク等の複合的なコースを高速かつ安全に走行する傾斜走行操縦競技で競った。総合成績入賞者は全国大会に出場した交通機動隊員であった。大会を終え、ベテラン乗務員からは『平成庁舎での大会で若い頃の熱い気持ちを思い出した。』、若手乗務員からは『先輩方のような運転技術にはほど遠いことが分かった。』、選手の家族からは『家とは違い、真剣な姿を見ることができて良かった。』などの感想があった。今後は各種競技に加え、白バイ・パトカーの展示や車両パレード等により警察活動をアピールし、警察職員採用募集にも役立てる競技会に発展させたい。」旨の報告があった。

委員

[意見]「大会を通じて白バイ隊員の安全確保にも繋がる。訓練を重ねて安全を確保しながら取締りに当たってほしい。」

委員

[意見]「大会を観覧したが、素晴らしい技術だった。日頃の努力の成果だと思う。女性隊員が競技する様子にも感銘を受けた。」

委員

[意見]「高度な操縦技術がないと安全な仕事はできないと思う。引き続き訓練を重ねて技術を上げてもらいたい。」

4 話題

無線機器の管理及び運用に関する調査・指導結果

警察本部

無線機器の管理及び運用に関する調査・指導結果について報告があった。

5 総括

「本日から県議会11月定例会が始まった。会期は12月22日までである。議員からの質問等が入れば、その都度結果を御報告申し上げる。本日の定例会全体会議では、来年の運営指針・重点目標の御審議をいただき、また今年重点目標の推進状況について御示唆にあふれる御意見をいただき、感謝を申し上げる。来年重点目標は継続性を第一に作成した。情勢はコロナによって変化していくものと思うが、ただ単にコロナ前に復するというのではなく、本日のようリモート形式の会議や、さまざまなSNSの活用など、新しい時代のものをどんどん組み合わせながら進めてまいりたい。また、個別の行事や施策についても相乗効果が得られるように努めてまいるので、折々に御指導を賜りたい。」旨の発言があった。